

新竹取物語 冬の祭典～中江藤樹先生の教えと安曇川の恵みにふれる旅



展示



栃ぜんざい



匠の技：吹田扇子さん



扇子絵つけ体験



扇子のお買い物



扇子白干し



郷土料理
エビ豆調理実習



漬物
いろいろ



カブトムシの観察



椿の花と落のとう
の天ぷら



竹釜めし



ご笑味タイム



私のご飯



竹チップ機械体験



竹細工：記念にお持ち帰り



コハクチョウの観察



中江藤樹記念館



藤樹神社



樹齢400年以上のタブノキの前にて



陽明園



藤樹書院



三尺の泉



古式漁法

雪だるま灯籠と竹松明とドンド：皆さん思い思いに雪遊びもお楽しみ下さいました



甘酒のご賞味タイム



ドンドを囲んで琵琶湖周航の歌を合唱



夕食：シカ肉もご賞味



中江藤樹先生の地元ファンと語る夕べ



近江扇子の扇骨は、300年を誇る伝統産業です。全国の90パーセントが安曇川地域で作られています。扇骨の材料は、安曇川沿いの良質の材料を使用していたのですが、生産量が増えるに従い材料が不足し、現在では、台湾や中国から輸入しています。そのため、竹林は荒廃しています。

私たちは、安曇川河畔林の荒廃した竹林を整備し、竹林公園をイメージし、美しい竹林景観を蘇らせる取り組みをしています。私たちの活動を新竹取物語と名づけ、先人の皆様の思いを子孫に伝えるべく、2007,7月から、整備活動をしています。荒廃した竹藪は、人が再び関わることで豊かな自然を取り戻せました。落ち葉をサッと取り除くと、そこに、カブトムシが“いるわいるわ”・・・感動の連続です。カチカチの硬い土壌も「ふかふかで気持ち良い」とおっしゃいます。先日、クモの冬眠を初めて見ました。小鳥も竹に巣を作り、3階のマンションになっていました。私たちの小さな体験会場ですが、次々と感動体験があり楽しみです。以前、ミョウガ・茶を作っておられたようです。私たちも大切に育て、体験学習に利用させていただきます。高島市の里山は、人と自然の良き“つながり”による生活空間そのものであることを、改めて学習しました。里山では、大人には、懐かしい、子供には、新鮮な体験・感動がいっぱい詰まっています。

私たちは、近江聖人中江藤樹先生の教えに学び、竹藪をホームランドとし、エコツーリズムで、“人と人”“人と自然”“人と未来”のつながりを少しずつ再構築していきます。土の人と風の人が、ともに感動し、ずっと未来にまで共有し続けることができたら、素晴らしいではありませんか。藤樹先生の教えに由来する“三尺の泉”のように、私たちにできる小さなことを、コツコツと実践し、積み重ねていきます。ありがとうございました。(スタッフ一同)